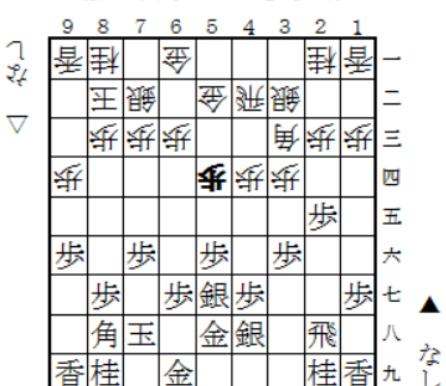


山田定跡 <後手四間飛車>

(第1図は△5四歩まで)



▲7六歩
▲2六歩
▲2五歩
▲4八銀
▲5六歩
▲6八玉
▲7八玉
▲5八金右
▲3六歩
▲6八銀
▲5七銀左
▲9六歩

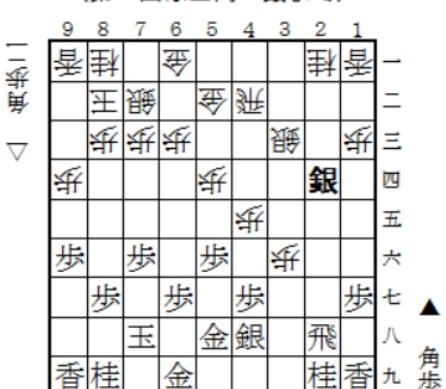
△3四歩
△4四歩
△3三二飛
△4二二銀玉
△3二二玉
△6二二金
△7二二左
△8二二銀
△7二二左
△5二二金
△9四歩
△5四歩
(第1図)

△同歩
△3六歩
△4五歩
△同銀歩
(第2図)

▲3五歩
▲4六銀
▲3五銀成
▲3三角成
▲2四歩
▲同銀
(第2図)

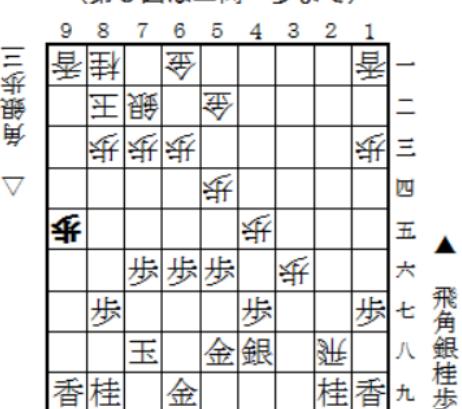
△同銀
△3三角飛
△2二飛角
△同角角飛
△同八飛歩
△同歩
(第3図)

(第2図は▲同 銀まで)



▲同飛
▲2一飛成
▲同龍
▲6六角
▲同歩
▲9五歩

(第3図は△同 歩まで)



居飛車急戦は主に

- ① 山田定跡
- ② 鶩/宮定跡
- ③ 棒銀
- ④ 46 銀左(斜め棒銀)
- ⑤ 45 歩早仕掛け

の5つになります。先手四間飛車の時は 67 銀と上がっても受けが間に合いますが、後手番の時は最短で攻められると受けが間に合わないため、後手は第1図のように 32 銀 + 54 歩(他に 12 香や 64 歩がある)で居飛車急戦に対して備えていきます。

この形の場合は、居飛車側は③、④、⑤で攻めるのはいつでも 45 歩と反発されるのでうまくいきづらいです。

その為、①、②で角頭を攻めていくか、68 金直と上がり、後手は 12 香と待つか、43 銀と上がって 43 銀型で受けしていくかを決めていきます。

35 歩、同步、46 銀から攻めていくのが①山田定跡です。この攻め方は色々な戦型でも応用できる仕掛け方なのでぜひ覚えてください。

第2図で後手は本譜のように同銀から大駒を交換していく方法と、34 銀と軽くかわす方法、64 角と飛香を狙う方法、46 歩と飛車先の歩を交換する方法がありますが、どれも互角です。

一番激しい変化が同銀になり、美濃風の堅さが活かせる変化です。

第3図で先手は 95 同香、93 歩、41 飛、31 飛、44 角などなど手が広くあり、後手も 29 飛成から 86 桂、88 銀、88 角などお互いに攻め合うことになり、形勢はほぼ互角です。

このように定跡を覚えれば、自分より段級位が高い人と対局しても互角に中盤まで進めることができるため、少しずつでいいので覚えていければ上達の近道になります。